2019 年度　部局 FD 活動報告

現代システム科学域

1.　FD 活動の実施体制、取り組みの概要

現・現代システム科学域の FD 活動に関しては 3 ポリシー検討 WG で、新・現代システム科学域の FD 活動に関しては現代システム科学系 WG で検討を進めて来た。また、3 学類において、それぞれに学類ごとの FD 活動に取り組んでいる。また、学域全体として「教育の内部質保証に関する調査・研修事業」に、人間環境科学課程において「forQs システムを用いた学習成果の把握と心理教育プログラムの評価」に取り組んだ。

2.　FD に関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
1 月 10 日	第 1 回内部質保証に関する研修会「ルーブリックの内部質保証への応用～ルーブリックとは？評価方法とは？～」	セミナー	40
1 月 16 日	第 2 回内部質保証に関する研修会「国際バカロレアに学ぶ成績評価の考え方」	セミナー	30
2 月 26 日	第 3 回内部質保証に関する研修会「ことつくり」の能力をどのように評価するか？～リーディング大学院（SiMS）での取り組みの一例～」	セミナー	26

3.　FD に関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
3 ポリシー検討 WG	2021 年度入試についての検討	3	15
現代システム科学系 WG	2022 年以降の新学域での 3 ポリシー、カリキュラム構成、入試方法の検討	11	22

4.　FD 活動への各教員の参加状況

※　前項のセミナー・委員会等への参加の他、教授会後に実施している勉強会等への出席や、分野内で成績分布について確認・検討する機会を設けている場合なども含みます。

教員数（実数）	80 人　／　80 人中

5.　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	70	2	
後期	70	5	
年度 合計	140	6	

6.　その他取り組みの具体的実施状況

---以下、知識情報システム学類

・　知識情報システム演習 II のポスター発表の実施
　➢　1 月 28 日（火）Ⅲ・Ⅳコマ　学術交流会館多目的ホールにてポスター発表を実施した.
　➢　質疑応答が偏らないように教員に割り当て、前半・後半の 2 部構成で行い、質疑応答内容をレポートとして提出させた。
・　卒業研究の発表会の実施
　➢　2 月 17 日（月）口頭発表による発表会を実施した。一人当たり 8 分の発表と 2 分の質疑応答を設けた．全体を 2 つのグループに分けてパラレルで実施した.
・　ヘルスケア分野の FD に関する取り組みとして、特に本年度から卒業研究ルーブリックを導入した事例の紹介を学類会議において実施した。

----以下、環境システム学類

・　「環境システム学演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生全員による発表会に全教員が参加することで、提示された成果への確認とさらなる示唆が、複数の教員から学生に直接与えられている。また、「環境共生科学入門」「社会共生科学入門Ⅰ・Ⅱ」などでも、連続的かつ多様な内容が学べるよう、複数の担当教員が連携しながら授業を進めてきた。環境システム学類会議では、入試問題の作成・演習における発表会・卒業研究の発表会などについて教員間で懇談協議し改善に努めた。

----以下、マネジメント学類

・　成績評価ガイドライン（現代システム科学域として統一）を確認し、説明した。
・　学生の視点に立ちシラバスを活用する方策等に関する授業運営課題と教育改善事例の共有を行った。
・　全学的な教育改革専門委員会におけるシラバスの活用及び時間外学習に関する議論を踏まえ、学類における関連課題を、マネジメント学類教育運営委員会の場を中心に議論した。毎年のように公認会計士試験現役合格が認められていることがその一端を示すように、マネジメント学類では授業運営での成果が見られるが、さらなる授業改善をめざし、進路状況や授業内容などを鑑みた個別の事情を全学的な観点から再検討した。経済学等の社会科学の大人数授業と理工系の少人数の実験との違い、卒業論文の位置づけ、期末筆記試験の実施などを検討した。
・　授業評価アンケートへの積極的参加の学生に対する呼びかけ、並びに各教員によるアンケートの分析とコメントを促進した。
・　年間の GPC 統計に基づいて、履修推奨科目の成績評価のあり方に関する検討を行った。
・　マネジメント学類のカリキュラムの再検討を実施した。
・　マネジメント学類の次年度カリキュラムに沿った FD 活動を検討した。
・　マネジメント課程と経済データサイエンス課程の新設にあたって、カリキュラムや教育運営上の問題点等を徹底的に検討した。
・　マネジメント課程と経済データサイエンス課程の課程選択に関するアンケートを行い、
経済データサイエンス課程の志望者が少ない問題の原因を検討した。その議論を踏まえて、一定の改善がなされた。
・　マネジメント課程と経済データサイエンス課程に関するガイダンスを行った。
・　経済データサイエンス課程の内容を学生に周知するために座談会を行った。
・　マネジメント演習Ⅰの選考方法について検討をおこなった。